

## 別紙

### 平成30年度委託試験・現地実証展示圃における試験項目及び

#### 成績取りまとめ要領

#### 1. 書式

##### (1) 用紙

原稿はA4版縦置きとし、1課題当たり6枚以内(枚数はできる限り偶数にして下さい)にまとめ、片面印刷として下さい。

##### (2) 体裁

余白は上下・左右26mm、フォントはMS明朝10ポイント、行数は40行程度、枠線等の体裁は、別添見本を参考にして下さい。

#### 2. 記載項目・記載順序

下表による。

原稿	委託試験の場合	現地実証展示圃の場合
1頁欄外	「委託試験成績(平成30年度)」と記載	「現地実証展示圃成績(平成30年度)」と記載
1頁冒頭	担当機関名、部・室名 実施期間(※1) 大課題名(※2) 課題名 目的(※3) 担当者名	担当機関名(普及指導センター等) 実施期間(※1) 大課題名(※2) 課題名 目的(※3) 担当者名 圃場の所在地、農家(組織)名 農家(組織)の経営概要
記載順序	1. 試験場所 2. 試験方法(※4) 3. 試験結果(※5) 4. 主要成果の具体的データ 5. 経営評価(※6) 6. 利用機械評価(※7) 7. 成果の普及(※8) 8. 考察(※9) 9. 問題点と次年度の計画(※10) 10. 参考写真(※11)	1. 実証場所 2. 実証方法(※4) 3. 実証結果(※5) 4. 主要成果の具体的データ 5. 経営評価(※6) 6. 利用機械評価(※7) 7. 成果の普及(※8) 8. 考察(※9) 9. 問題点と次年度の計画(※10) 10. 参考写真(※11)

#### 【試験及び取りまとめ項目について】

##### ※1 実施期間

開始年度～終了予定年度を記す。新規或いは継続が分かるように明記する。

##### ※2 大課題名

当該大課題は、新稲作研究会が目指す方向に沿って推進しようとする次の5つの内の大課題名を記入する。

- I 大規模水田営農を支える省力・低コスト技術の確立
- II 高品質・高付加価値農産物の生産・供給技術の確立
- III 水田を活用した資源作物の効率的生産・供給技術の確立
- IV 環境保全を配慮した生産技術の評価・確立
- V 情報処理等先端技術を活用した高生産システムの確立

※3 目的

目的の記述に当たっては、当該課題が、上記大課題の中での位置付けが明確となるよう留意する。

※4 2 試験方法又は実証方法

継続実施課題の場合、前年度までの試験（実証）成果を踏まえて、本年度において重点的に取り組んだ或いは変更した試験又は実証項目概要について冒頭に記述する。

その際、前年度までの成果、残された課題について、本項目の冒頭に要約を適切に記述する。

(1) 供試機械名（試験・実証の対象とした機械名を記す）

(2) 試験条件（原則として、試験・実証区及び対照区を設置する）

ア. 圃場条件（土壌統名、排水の良否、雑草の試験では前作条件等を記す）

イ. 栽培・調製・給与の概要

次の項目を標準とする。試験・実証の内容に応じて主要な供試機械名を項目別に記す。また、項目を適宜削除または追加して記載する。

品種名

耕起（方法、時期）

均平（方法、時期）

鎮圧（方法、時期）

代播き（方法、時期）

播種（播種様式、播種前処理、播種期、播種量）

育苗（播種期、播種量、育苗期間、葉齢）

移植（移植期、栽植密度、1株苗数）

施肥（基肥・追肥別3要素施用量、施用時期、肥料の種類、施肥方法）

水管理（灌水及び落水の時期、湛水深）

中耕培土（方法、時期）

除草（除草機；種類、除草時期）

（除草剤；名称、施用時期、施用量、施用方法）

病虫害防除（農薬の名称、施用時期、施用量、施用方法）

鳥獣害防除（方法、時期）

収穫・調製（方法、時期）

給与（飼料作物の給与方法）

※5 3 試験結果又は実証結果（原則として、試験・実証区及び対照区について記載する）

(1) 次の項目を標準とし、試験・実証の内容に応じて項目を削除または追加して、記載する。

出芽数

苗立数

雑草（発生時期、主要草種、草量）

病虫害（発生時期、主な種類、被害状況）

生育・品質・収量（飼料作では、栄養価・嗜好性・単位面積当たり乾物収量等）

作業能率（10a当たり作業時間、実作業率等）

◎成績の取りまとめに当たり、対照区（コントロール）、慣行区等とのデータ比較等により有意差を示す等、第三者に対して説得力があるよう記述の工夫をして下さい。

※6 5 経営評価

収量・品質の向上効果、当該技術（機械）を導入した経営的效果（慣行技術との比較、単位面積当たり所得・生産費用、作業時間、燃料消費量等の比較、経営収支比較等）、総合的評価及び問題点について具体的に記述する。

※7 6 利用機械評価

供試・利用機械及び施設に関して、作業精度、作業能力、作業効率等に係わる評価や改善点等（担当農家からの聞き取り結果を含む）について具体的に記述する。

※8 7 成果の普及

試験成果又は実証成果に関して地域の農業者等への普及手法（現地検討会の開催等）、具体的な目標、スケジュール等で固まっているものがあれば記述する。

※9 8 考察

- (1) 生育、収量、品質、作業技術、経営評価、供試機の適応性等について、前年度までの成績も含めて、良い点、悪い点及び問題点（改良方向）等を明確に記述する。
- (2) 現地実証展示圃については、普及の見通し、担当農家の意見・要望、経営的效果、残された課題等についての考察を加える。

※10 9 問題点と次年度の計画

本年度の試験結果から考察された問題点、今後の課題や展望、次年度の重点的試験項目、次年度に設計を変更する場合は変更のねらい及び変更試験項目を記述する。

※11 10 参考写真

圃場における機械作業、作物の生育、雑草の発生程度など試験又は実証内容を示す参考写真をA4版用紙1～2枚に、適宜枚数、添付する。

3. 成績概要の作成

一般農家を含めて関係者への成果の普及拡大を図ることなどを目的として、成績書とともに成績概要を作成して下さい。その作成方法は、別添資料の通りです。

4. 成績書及び成績概要原稿の提出

(1) 提出期限

平成31年1月20日頃

(2) 送付上の注意

送付頂いた原稿は、そのままを製版・印刷（白黒印刷）するので、原稿送付（原則、メールにて送付）の際、ご配慮下さい。

(3) 原稿送付先

〒107-0052 東京都港区赤坂1丁目9番13号 三会堂ビル 7階

公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会

新稲作研究会事務局長 浅見 薫

TEL: 03-3586-8644 FAX: 03-3586-8277

E-Mail: [kaoru\\_asami@jataff.jp](mailto:kaoru_asami@jataff.jp)

※ 平成30年度成績検討会は、平成31年3月頃に東京都下で開催予定です。

別添見本様式（委託試験）

委託試験成績（平成30年度）

担当機関名 部・室名	
実施期間	
大課題名	
課題名	
目的	
担当者名	
<ol style="list-style-type: none"><li>1. 試験場所</li><li>2. 試験方法 前年度までの・・・を踏まえ、本年度は・・・</li><li>3. 試験結果</li><li>4. 主要成果の具体的データ</li><li>5. 経営評価</li><li>6. 利用機械評価</li><li>7. 成果の普及</li><li>8. 考察</li><li>9. 問題点と次年度の計画</li><li>10. 参考写真</li></ol>	

別添見本様式（現地実証展示圃）

現地実証展示圃成績（平成30年度）

担当機関名	
実施期間	
大課題名	
課題名	
目的	
担当者名	
圃場の所在地 農家(組織)名	
農家(組織)の経営概要	
1. 実証場所	
2. 実証方法 前年度までの・・・を踏まえ、本年度は・・・	
3. 実証結果	
4. 主要成果の具体的データ	
5. 経営評価	
6. 利用機械評価	
7. 成果の普及	
8. 考察	
9. 問題点と次年度の計画	
10. 参考写真	

## 別添

### 平成30年度委託試験・現地実証展示圃における成績概要の作成方法

#### 1. 書式

##### (1) 用紙

原稿はA4版縦置きとし、1課題当たり2枚にまとめ（厳守）、片面印刷として下さい。

##### (2) 体裁

余白は上下・左右26mm、フォントはMS明朝10ポイント、行数は45行程度、枠線等の体裁は、別添見本を参考にして下さい。

#### 2. 記載項目・記載順序

下表による。

原稿	委託試験の場合	現地実証展示圃の場合
1頁 記載 順序	1. 大課題名（※1） 2. 課題名 3. 試験担当機関・担当者名（※2） 4. 実施期間（※3） 5. 試験場所 6. 成果の要約（※4） 7. 目的（※5） 8. 主要成果の概要及び考察（※6） 9. 問題点と次年度の計画（※7）	1. 大課題名（※1） 2. 課題名 3. 実証担当機関・担当者名（※2） 4. 実施期間（※3） 5. 実証場所 6. 成果の要約（※4） 7. 目的（※5） 8. 主要成果の概要及び考察（※6） 9. 問題点と次年度の計画（※7）
2頁 記載 項目	10. 主なデータ（※8）	10. 主なデータ（※8）

#### [取りまとめ項目について]

取りまとめ項目については、以下の通りですが、全般的にいて平易な文章で成果の概要をわかりやすくまとめて下さい。

#### ※1 大課題名

当該大課題は、新稲作研究会が目指す方向に沿って推進しようとする次の5つの内の大課題名を記載する。

- I 大規模水田営農を支える省力・低コスト技術の確立
- II 高品質・高付加価値農産物の生産・供給技術の確立
- III 水田を活用した資源作物の効率的生産・供給技術の確立
- IV 環境保全を配慮した生産技術の評価・確立
- V 情報処理等先端技術を活用した高生産システムの確立

#### ※2 試験（又は実証）担当機関・担当者名

担当機関名、部・室名、担当者名を記載する。

※3 実施期間

開始年度～終了予定年度を記す。新規或いは継続が分かるように明記する。

※4 成果の要約

本年度の成果の要約を3～5行の文章の範囲で取りまとめて記述する。

※5 目的

成績書において記述した目的の要約を記載する。

※6 主要成果の概要及び考察

生育状況への影響、収量・品質等への影響、作業効率向上への効果、供試機械の作業実施状況、経営評価（経営収支の向上や生産コストの低減）等に関する主要成果を5項目以内くらいに取りまとめて、それぞれの成果概要とともに考察を記述する。

※7 問題点と次年度の計画

本年度の試験・実証結果から考察された問題点、今後の課題や展望、次年度の重点的試験項目等について記述する。

※8 主なデータ

「8. 主要成果の概要及び考察」の事項において取りまとめた主要成果に関連する具体的なデータを図、表、写真として合計で5～6枚以内に記載する（図、表、写真については、それぞれに通し番号を付ける）。

別添見本様式

1. 大課題名
2. 課題名
3. 試験（又は実証）担当機関・担当者名

4. 実施期間
5. 試験（又は実証）場所
6. 成果の要約

7. 目的

8. 主要成果の概要及び考察

(1)

(2)

(3)

(4)

(5)

(6)

9. 問題点と次年度の計画

(1)

(2)



別添見本様式

10. 主なデータ